

4 地域防災ステーション

活用してください! 災害時の活動拠点



「地域防災ステーション」は、①自治会*が発災直後の一時的な集合場所として使い、②ステーションに設置された資器材を持って消火・救助へ向かう「災害時の活動拠点」です。また、③救援物資の配布拠点にもなります。箕面市内60カ所以上に整備していますので、ぜひ活用してください。

*自治会にはマンション管理組合を含みます。

地域防災ステーション3つの活用方法

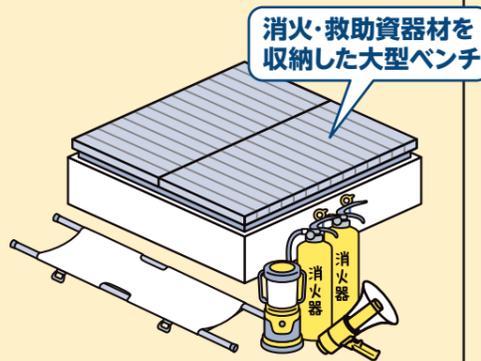
① 集合する!

発災直後に集合し、自治会の一時的な避難場所として活用します。また、隣近所の安否確認の結果をとりまとめる場所としても活用します。とりまとめた結果は、代表者が避難所に報告に行きます。



② 助けに行く!

消火・救助活動の拠点です。ステーションに備わる消火・救助資器材を活用することで、消火や救助に向かう時間を大幅に短縮でき、1人でも多くの命を救うことができます。



③ 配る!

救援物資の配布拠点です。市では、災害時の救援物資の配布は、自治会を通じて行います。地域防災ステーションは、その配布拠点にもなります。



地域防災ステーションの収納資器材は 普段の自治会のイベントにも 使用できます!

大型ベンチに備えている資器材は持ち運びができ、安全で使いやすいものばかりです! 災害時に備え、取り扱いに慣れておくためにも、テントやランタン、ハンドメガホンなどの資器材は、普段の自治会のイベントでも使用してください。



資器材収納 24種類

簡易テント

伸縮はしご

四つ折り担架

消火器

ジャッキ

地域防災ステーションを使用するには…「使用権限申請書」を提出するだけでOK! 「使用権限申請書」を提出いただくだけでダイヤル錠の番号をお伝えします。お申し込みは市民安全政策室 ☎724・6750へお電話ください。

お問い合わせ 箕面市 総務部 市民安全政策室

☎072・724・2121(代表) / 072・724・6750(直通) FAX072・724・6376

明日、起こるかもしれない

大災害

地域編

そのとき地域が命を助ける!

箕面市の地域防災の中核

1 小学校区ごとの 地区防災委員会

箕面市では、大規模災害が起きた後、たとえ行政機能が停止していても、地域で地域を守る体制を作るため、小学校区ごとに「地区防災委員会」を設立しています。

大切な家族や自分を災害から守る第一歩

2 自治会に入る

箕面市では、大規模災害時の安否確認を自治会単位で行います。また、ライフライン・物流復帰までの物資 配布など優先的に自治会を通じて行います。

大地震! 「うちは大丈夫」の目印は

3 黄色いハンカチ作戦

箕面市では、大規模災害時に隣近所の人たちで素早く安否確認を行うため、黄色いハンカチ作戦を進めています。

活用してください! 災害時の活動拠点

4 地域防災ステーション

箕面市内60カ所以上に救助資器材を収納した大型ベンチを整備し、災害発生直後の一時的な避難場所や、安否確認のとりまとめ、救援物資の配布拠点にします。

箕面市

令和7年4月作成

1 箕面市の地域防災の中核 小学校区ごとの 地区防災委員会



箕面市では、大規模災害が起きた後、たとえ行政機能が停止していても、地域で地域を守る体制を作るため、小学校区ごとに「地区防災委員会」を設立しています。

平時の活動

平時には、地区での防災訓練や、地区内の団体のとりまとめなどを行います。

役員会 地域で決めた役員が話し合って会の運営をしています。

全体会 役員と、自治会、マンション管理組合・各種団体の代表者が情報を共有します。

住民のみなさん 自治会や団体の代表者は、それぞれの構成員に情報を伝えます。

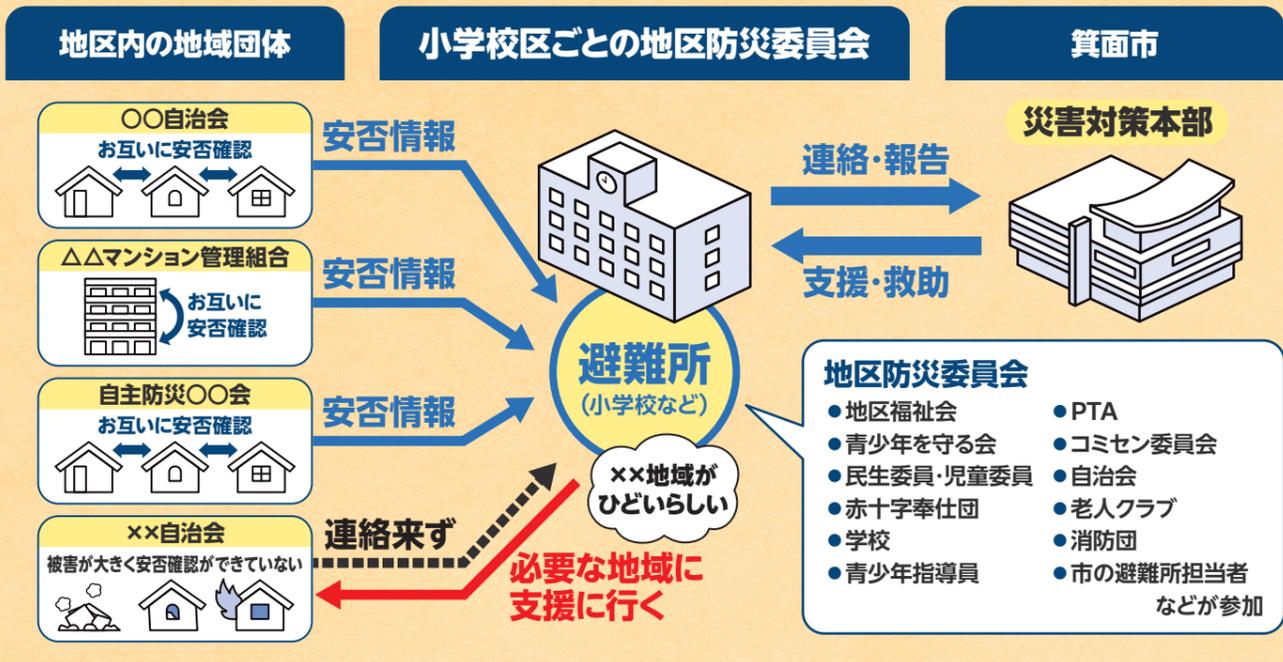
発災直後の活動

震度5強以上の地震が起きたら、役員は避難所に自動参集します(震度5弱以上の地震のときは、市職員と学校職員が避難所を開けます)。

- 1 避難所の自主運営
- 2 地域の安否情報のとりまとめ
- 3 市と連携した地域の支援

※発災から数日たつと、避難所は在宅被災者の支援拠点にもなります。

小学校区ごとの地区防災委員会のイメージ



必ずご参加ください! 毎年1月17日は 全市一斉総合防災訓練



箕面市では、阪神・淡路大震災が起きた1月17日に毎年、曜日にかかわらず、「全市一斉総合防災訓練」を実施しています。災害は、何曜日にも起こるかわかりません。家族がバラバラに過ごしている平日や、家族みんなが家にいる休みの日など、いろいろな曜日に訓練をしておくことが、いざというときの行動に繋がります。

- 地区防災委員会は**
- 避難所開設訓練
 - 自治会などからの安否情報の集約 など
- 自治会のみなさんは**
- 「黄色いハンカチ作戦」による安否確認訓練 など
- 各家庭では**
- 家庭の備えができていないかを確認 など

2 大切な家族や自分を災害から守る第一歩 自治会に入る



地震などの災害が発生したとき、公的な機関だけで全ての命を救うことはできません。

阪神・淡路大震災では、消防や警察などに救助されたかたは2割程度しかおらず、約8割のかたは、自治会など地域のかたに救助されました。隣近所の素早い安否確認が多くの命を救うこととなります。

大規模災害時の安否確認を自治会単位で行います

災害時に素早く安否確認ができるよう、自治会であらかじめ「安否確認分担表」を作成し、安否確認をするグループや報告に行く人、報告を受けの人、集合場所などを決めていきます。



ライフライン・物流復帰までの物資配布など、優先的に自治会を通じて行います

水や食糧など災害時に必要な救援物資は、小学校区ごとに設けられた地区防災委員会から、自治会を通じて配布します。



自治会への加入のご相談は今すぐ
箕面市役所自治会係 専用ダイヤル ☎724・6179へ!

3 大地震! 「うちは大丈夫」の目印は 黄色いハンカチ作戦



箕面市では、迅速な安否確認をするために、黄色いハンカチ作戦を進めています。大地震の後、家にいる家族が全員無事だったら、黄色いハンカチ(大きく目立つ黄色い布)を玄関先などに掲げてください。発災時、自治会であらかじめ作成する「安否確認分担表」をもとに、安否確認とりまとめ責任者などが、黄色いハンカチを目印に安否確認を行います。



黄色いハンカチがないと...

黄色いハンカチがないと、1軒1軒「ピンポン」してとても時間がかかります。応答があるまで無事かどうかも分かりません...

留守かな... 家の中で倒れているのかも... 中に入って無事を確認しないと...

安否確認に時間がかかり、助かる命を救えません!

黄色いハンカチがあれば!

安否確認がスピードアップ!

黄色いハンカチ! ここは無事だ! よし、次へ!

いちいち「ピンポン」しなくても外から一目で無事と分かります!

迅速な安否確認のために、大きく目立つ黄色い布を各ご家庭で必ず用意してください!